



## 編輯後記

本誌の投稿者の少なく、且意外に発行が後れたことは甚だ遺憾である。この投稿者の少ないと云ふことは休刊してゐた關係かも知れぬ、次回発行の際、本誌に数倍したものが出来ることしたら、本誌はそれだけでもかなりの目的を達し得たとも云ひ得る會員諸君の努力と後援を望む。

本誌發行に就いて高田、丸山、永倉、松木、渡邊の諸教授の多大の援助を蒙つたことをこゝに記して深く感謝す。



## 同窓會々報

庶務部から

四月二十四日昭和三年度の幹事選舉は開票の結果左の通り當選した。

- |            |            |
|------------|------------|
| 木村鍊戒 (庶務部) | 吉田孝秀 (運動部) |
| 田代榮正 (文學部) | 矢野鍊明 (購買部) |
| 田中慈石 (會計部) | 三木淨達 (辯論部) |

因みに會長は杉田院長現下で、副會長は高田教頭、庶務部長塩田教授、辯論部長松木教授、會計部長丸山教授、文學部長渡邊教授、運動部長永倉教授、購買部長中條教授である。

四月三十日本學院講堂で昭和二年度の定期大會を舉行した、其の概況は左の通りである。

定刻八時三十分會員一同着席遠藤本勳君開會を述べ、副會長高田惠忍教授の命に依り議長に永倉師を推し直に議長席に着席。幹事の各部報告に次で、各部に對する質問より漸次議事の審議に入る、然れども午後三時三十分時間の切迫により停會を宣せらる。依て翌五月一日午後再び開會す、議事順調に進み舊幹事の辭任式並に新幹事の就任挨拶あり、次で新幹事の豫算案の發表あり異議なく通過。直ちに、緊急動議に入るも議論百出し再び停會を命ぜらる。越へて二十一日午後三回目の續會を開く。開會を宣してより斯に二十日、漸く愛會の至情堂内に充滿し何等の障壁何等の隔意もなく昭和二年度の定期大會は終り午後四時副會長高田教頭の閉會の辭に何れも喜悅滿面嬉々として散會した。

前年度までの幹事は、同窓會としての詳細な記事は事のある都度庶務を通じて文學部から身延教報に掲載してゐた。今度も逐次身延教報誌上に擧げた故に、茲には紙數の許さない邊もあるし、各部から別に報告も出るから今はたゞ骨目の概録に止めて置く。

毎年五月一、二、三の三日間は、甲府市の稻荷祭典を機織と